

助成事業名

各務原狂言囃子の会事業 (スタート助成2年目：船出の会)

事業概要

村国座で狂言と囃子の公演を行うことで、地域に根差す伝統文化の起源となる能や狂言への関心を喚起し、伝統文化を引き継ぐ次世代を育む。

実施内容



舞囃子「小袖曾我」



狂言「川上」



番外一調 鼓ノ段



能「籠太鼓」



装束付け



能面体験



飲食販売

-*

事業成果

アンケート結果で、回答者 135 人中 44 人が「今までに能を観覧したことはない」方だったが、満足度は「とても良かった」97 人、「よかった」34 人と、97%が満足と答えていた。また、「能・狂言・囃子を身近に感じるようになった」と感じた方は 128 人(94.8%)であった。
能や狂言に触れてもらうことで関心を喚起でき、目的が達成できた。

収支報告

事業費総額 1,136,349 円 / 助成金交付確定額 50,000 円

助成経費内容

出演料、交通費、楽曲使用料、演目使用備品、会場費、チラシ印刷代、チラシ折り込み代、事務消耗品

1. 広報活動

チラシ 6,000 部、ポスター10 部制作。

(公共施設等での配布・関係先への配布、新聞折り込み 1,400 部)

2. 各務原狂言囃子の会 (村国座)

開催日：10/19

参加者：大人 207 人、学生 10 人

各務の舞台「村国座」にて、第三回狂言と囃子の会が開催されました。子どもから高齢者まで幅広い年代の 217 人が来場し、舞囃子「小袖曾我」、狂言「川上」、能「籠太鼓」の公演を楽しみました。

この事業は、伝統芸能の面白さや、その延長線上にある地域の祭りなどの伝統行事にも興味を抱く住民を増やすことを目的に企画。

能や狂言に初めて触れる方にも面白さが伝わるよう、作品の見どころや表現の意味などの解説や、舞台裏でしか見ることができない装束付けを間に挟むプログラム構成としました。

また、会場の外、受付前には来場者が面に触れて体験ができるコーナーを設けました。来場者は面を身に着け感想を語り合いながら写真撮影していました。

珈琲やお菓子を販売する露店にも協力を得て、来場者同士がお茶を飲みながら話せる場も設けた結果、地域住民を中心に、参加者同士がコミュニケーションをとる様子が見られました。